

*Full - Time*

**TRAINING**

*in*

*Tokyo*

**2014**





# Full-Time Training

## 全時間訓練

全時間訓練は神学校や聖書学校ではありません。  
それは青年たちが共に住んでからだの生活をして  
霊的な命を訓練し、ここで訓練されて成就され、

聖書を学び、祈りを学び、

良い性格を建て上げることです。

主を追い求める青年たちを成就して

キリストの中で成長させ、

キリストのからだにおける正常な、

生きた、機能する肢体となって、

キリストの有機的なからだを建造し、

キリストのからだの実際を生かし出します。

Watchman Nee ウォッチマン・ニー

## 訓練の五つの面

真理、命、奉仕、福音、性格



畠本 翼

*Hatamoto Tsubasa*

真理とは、わたしにとって、恵みであり、実際です。以前までは、御言をただ読むだけで、「ふーん、そんなものか・・・」等と、読んでいましたが、神の光によって、御言の『真の意味』が見えたり、今まで分からなかったことが理解できたとき、わたしのおおいが取り除かれ、『視野が広く』され、とても『解放』されました。

RSG 等でも、祈り読みすることによって、真の意味を内側のその霊を通して見るとき、とても新鮮な喜びに触れることができます。自分が落ち込んでいるときも、わたしの RSG パートナーは、彼の内側で実際となった、『命を与える霊』としての、真理を語ってくれたとき、わたしを思いの中から救い出してくれました。

真理とは、ギリシャ語で『実際』を意味します。御言の中に啓示された、神の実際、すなわち『主ご自身』を、すべての祈りと願い求めによって日々受け取ることができますように。

# 真理

～*Truth*～

「そこでピリポが走り寄ると、その人が預言者イザヤの書を読んでいるのを聞いて、『あなたは読んでいる事がわかりますか?』と言った。すると彼は言った、『だれかがわたしを導いてくださるのでなければ、どうしてわかるでしょう?』。そして彼はピリポに、馬車に乗って一緒に座るよう請い求めた」(使徒行伝 8:30, 31)。

ピリポは、真理で構成され、真理を語り出すことの模範でした。聖書の解釈と解説を必要としている人たちがいます。彼らに「今から調べるので待ってください」と言う時間がないことが多くあります。その時、わたしたち自身が真理で構成されていなければ、何を語り出すのでしょうか? どうか、主があわれんでくださり、真理の言を真っすぐに裁断し供給する者となりますように。



澤江 尚子

*Sawae Naoko*



劉 九如

*Liu Jouru*

「もしだれかが、他の人に対して不満を抱くことがあっても、互いに忍び合い、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたも赦すべきです」(コロサイ 3:13)。聖書は人に対する神の言葉です。すべての言葉はわたしたちに対してです。この言葉を与えてくださることを感謝します。訓練の中で一緒に生活して、うまくいかないことがよくあります。この時いつも自分の天然の命が暴露されます。天然の人は外側の環境を見ます。しかしキリストは人の内側を見ます。兄弟姉妹を愛することができないことは、神に対して服従しないことです。なぜなら主はわたしのような罪人を赦してくださったからです。同じように他の人のことを赦すべきです。主よ、あなたの愛と恵みが必要です。わたしを内なる人へと増強してください。あなたの愛によって訓練を続けます。

命

~Life~

「生きているのはもはやわたしではありません。キリストがわたしの中に生きておられるのです。そしてわたしは今、肉体の中で生きているその命を、わたしを愛し、わたしのためにご自身を捨ててくださった御子の信仰の中で生きるのです(ガラテヤ 2:20)。訓練を通して「わたしには出来ない」この事実を一つ一つ認める事を通してはじめて、全てを含む命を与える霊に完全に依り頼み、復活の命を経験する、この命の経験は何にも代え難いわたしの宝物です。命は全てを飲み尽くします。主は素晴らしい方、愛らしい方で、毎日新鮮に語って、魅力する方です！生きているのはもはやわたしではありません。キリストがわたしの中に生きておられます。訓練生活を感謝します。キリストの命を生き表現する者へと造り変えられたいです。



松田 朋子

*Matsuda Tomoko*



高屋 慎一

*Koya Shinichi*

奉仕は作業とは違います。どれだけキリストの命の供給にあずかれたかどうかであり、効率良く良い結果を残すことではありません。わたしは訓練1年目で奉仕と仕事の違いを照らされ、奉仕と作業の違いを学んでいます。それはどんな簡単なことであれ、人と取り組んで行う必要があります。まず、一緒に出来る人を探す必要があります。そして、祈りから開始する必要があります。「からだ全体は、その豊富な供給のあらゆる節々を通して、またそれぞれの部分の度量に応じた活動を通して、結合され組み合わされ、からだを成長させ、愛の中でそれ自身を建て上げるに至るのです」(エペソ 4:16)。わたしが柱へと成就され、人を柱へと成就することができますように。キリストの複製となり、複製を生み出すことができますように。

# 奉仕 *~Service~*

「神はまたわたしたちを新しい契約の奉仕者として、資格づけてくださいました。それは、文字ではなく、霊の奉仕者です。なぜなら、文字は人を殺しますが、その霊は人に命を与えるからです」(Ⅱコリント 3:6)。

わたしは、奉仕を義務として、ノルマとしてこなすことが多くありました。しかし、交わりや経験を通して、わたしたちの奉仕はキリストを表現するもの、神のかぐわしい香りがあるものだと知りました。また、わたしは完全な者ではありませんが、与えられた奉仕を完璧にしたいという思いが強かったことを照らされました。過程において、他の肢体と組み合わされて取り組んでいるか、主をエンジョイしているか、ということも学んでいます。いつもその霊で満たされていますように。奉仕にあずかっている時も、命であるキリストが生かし出されますように。



桶川 栄喜

*Okegawa Eiki*



朴 弦仕

*Park Kenjū*

わたしは福音を愛します。福音は枝としての実を結ぶことであり、忠実な奴隷としての商売であり、人を王国へと生まれ変わるようにする漁師であり、キリストの復活の証人たちとなることです。神がこの世を愛されてひとり子を遣わされた際、御子は御父のみこころを実行する活動で満たされていました。キリストの33年半の人生はわたしたちに生活の原型（1ペテロ2：21）として与えられるためです。そのため、キリストから学び、キリストを倣っている弟子たちから倣い、神の諸召会に倣い、また、信者たちの模範となり、人々このことのために召されることを認識させるのです。王国の福音は王国へと入るにとどまらず、王国の実際を生きること、召会を産み出します。王国の福音を通して、召会が産み出され、子羊の花嫁として主を向かえ入れることができますように！

# 福音 ~Gospel~

「ただ、キリストの福音にふさわしく振る舞いなさい。それは、わたしが行ってあなたがたを見るにしても、離れているにしても、あなたがたの様子を聞くことができるためです。すなわち、あなたがたが一つ霊の中でしっかりと立ち、一つ魂をもって、福音の信仰と共に奮闘しており」（ピリピ1：27）。

全時間訓練が始まってすぐに、集中キャンパス福音がありました。わたしは福音をほとんど伝えたことがなかったので、どうすればよいかわからず、ただついて行って周りの兄弟姉妹を見ているだけでした。少しずつ慣れてきて、話しかけることもできるようになりました。友人と連絡先を初めて交換した時は嬉しかったです。徐々に福音がエンジョイに変わってきました。彼女は主日の集会にも来てくれました。福音を伝える時は、わたしのこれまでの経験流すだけで良いことに気付きました。難しいことを語る必要はなく、友達のように接すればよいことを経験しました。まずわたしたちが主に満たされ、霊を活用できますように。日常生活の中で福音を伝えることができますように。



野崎 菜々子

*Nozaki Nanako*



稲浪 有人

*Inanami Yuto*

「こういうわけで、わたしたちは落胆しません。それどころか、わたしたちの外なる人が朽ちていっても、わたしたちの内なる人は、日ごとに新しくされていきます」(Ⅱコリント 4:16)。

わたしは、訓練の中で、自らの性格に落胆する時や、魂の部分が強いと感じる時があります。しかし、内なる人によって生きる時、外なる人の構成要素である魂の命は否まれます。ですが、その機能である、思い、意志、感情は新しくされ引き上げられます。これらは、内なる人のパースンである霊によって用いられます。わたしたちが落胆することなく、日ごとに新しい主を享受することができますように。

# 性格 ~Character~

訓練前、わたしは誰とでもうまく関わっていけると思っていました。しかし、訓練生活において、誰にでも不満を持ち、誰とも組み合わせられない者であることを暴露されました。主は、盲目であったわたしに、訓練を用いてこの事を照らしてくださいました。もはや主の造り変えなしに、真の建造はない事を見ました。

「あなたがたの謙虚溫柔さを…」(ピリピ 4:5 前半)。謙虚溫柔さとは、人の最高峰の徳であり、信者たちから生かし出された卓越した美徳としてのキリストご自身です。主との交わりにより、神聖な分与を受けることによって、主が内側に造り込まれ、謙虚溫柔さを建てあげることができます！絶えず主と交わり、主である美徳で構成され、真に組み合わせられ、真に建造される者となることができますように。



永森 香美

*Nagamori Yoshimi*



## FTTT(台北)ブレンディング

2014年6月14～22日、10期訓練生は台北全時間訓練(FTTT)に行って来ました。8日間、台湾の訓練生と生活行動を共にしました。この案配の趣旨は、今後の訓練に応用できるように、早く模範を見て学ぶためでした。

まず受けた印象は、台湾の訓練生の霊が強いことでした。食事中でも、休憩中でも、事務報告の時でも霊を活用して命を供給していました。また、わたしたちの所に積極的にやって来て交わりました。いつもタイムリーな内容でとても主の臨在を感じました。

訓練既定のスケジュール以外の時間はほとんどわたしたちに運用を任されたので、機会を捕らえ、トレーナー兄弟との交わり、TA(ティーチングアシスタント)との交わり、また路上福音の特別講習と実習(内容割愛)に活用しました。交わりに当たって、事前に訓練生同士で交わって、質問を用意して臨みました。すっきり爽快な気持ちにしてくれたQ&Aを紹介します。

Q. (TAへ)台湾の訓練にはTAがいて、ノートの添削と生活指導などをやってくれる。日本にはそもそもTAがないので、あまり訓練されない気がする。どうすればいいのか?

A. TAがいるのは一種の訓練、いないのも一種の訓練。サムエルにTAがいなかったどころか、トレーナーの祭司エリは最悪だった。それでもサムエルは時代を転換する予言者になった。わたしが最初にブラザーズハウスに住んだときは、奉仕者がいなかった。その時わたしは自主性を学んだ。そのあと奉仕者が案配されたので、権威に服従することを学ぶ機会になった。

Q. (トレーナーへ)祈りのリストを持っているが、負担がわかなくなったり、義務的にリスト通りに祈るのも宗教的に感じたりして苦悩している。どうすればいいのか?

A. わたしはまず主の前に出て主をエンジョイし、至聖所に入ることを経験する。そのあと主に何のために祈って欲しいかを聞く。それはリストにあるかもしれないし、ないかもしれない。主が何を祈りたいかを聞くべきだ。祈った後は環境の変化を観察する必要がある。

祈り→観察→祈り→観察です。

外側の事柄から、内側の神聖で奥義的な領域にもたらされた8日間でした。今は外側の規則よりも内側の命の霊の法則にもっと注意を払い、従うことを心がけるようになりました。トレーナー、同期、ゴスペルパートナー、カリキュラムなど外側の環境よりも、自分がいかに主に

対して絶対に献身し、主を享受する隠れた生活をするのが、訓練の成果を決定すると思うようになりました。外側の環境は良くても悪くても、すべてわたしたちの祝福のためです。



西村 達也

*Nishimura Tatsuya*



## FTTA(アナハイム)ブレンディング

海外ブレンディングにおいて印象付けられたのは、FTTAの訓練生一人一人が主との個人的な関係を堅固に築いているということです。また、主を享受することが生活の中に根付いており、とても自然でした。

わたしは周囲の目を気にして、自分の感覚と別の行動をしてしまうことがあります。しかし、彼らはそのようなことはありません。主を享受した時は全身を使って表現しているし、そうでないときは無理に取り繕ったりしません。また、生活が祈りと詩歌で満ちていて、常に霊を活用しています。彼らの様子を見て、わたしは自分と主との関係よりも、人の目ばかり気にしていたことを照らされました。生活の中で絶えず主を享受することによって、主と堅固な関係を築き、主から直接受けた感覚に素直に従うことを訓練できますように。



葉 濱璟

*Ye Binjing*



# 訓練生の一日

- 6:00 起床
- 6:30 個人の祈り
- 7:00 朝食
- 7:30 聖書通読
- 8:00 クラス I
- 9:45 クラス II
- 11:30 キャンパスワーク
- 16:25 務めの集会、チームの交わり、PSRP
- 17:45 夕食
- 19:00 自習、祈りの集会、小組
- 22:00 部屋ごとの祈り
- 22:30 就寝



共通のクラス：  
キリストの満ち満ちた務め  
その霊  
性格  
神のエコノミー  
英会話 or ギリシャ語  
神の定められた道

一年生のクラス：  
キリストのからだ（1）  
子供と中高生  
三一の神と彼の言葉  
キリストを命として経験する（1）

二年生のクラス：  
キリストのからだ（2）  
奉仕の生活  
新エルサレム  
キリストを命として経験する（2）



## 全時間訓練への主の導き

わたしが全時間訓練に参加するきっかけとなったのは、2012年12月に名古屋で行われた全時間訓練生による集会の後、兄弟たちに勧められたのがきっかけでした。5年程前ショートタームで3ヶ月ほど訓練にあずかった時、数人の兄弟たちから訓練の継続を勧められたのですが、当時わたしは年齢的に見ても「今から訓練で2年間を捧げることは難しい」と判断し訓練の継続を断念しました。

その後、地元に戻り在職者として会社勤めをしていたのですが、ある日会社の同僚が「定年退職後どのように生活し老後を迎えたら良いのか考えると不安だ」と毎日のように話しているのを聞いて、わたしも自分の将来を真剣に考えるようになりました。

「このまま自分の為だけに生きて人生の最期は虚しくならないだろうか？ どうせ一度きりの人生なら、自分の生涯すべてキリストにささげて終わりにしよう！」と決意

し、地元の兄弟たちや諸地方の兄弟たちと訓練に対する願いを交わり、徐々に訓練への道が開かれてきました。

兄弟たちと交わりを開始した当初は、解決しなくては訓練に参加できない問題が多くあり、そんな中気持ち弱くなることも多くあったのですが、からだの兄弟姉妹の祈りと支えによって道が完全に開かれ、訓練に参加できたことを心から主に感謝します。

「イエスは彼らを見つめて言われた、『それは人にはできないが、神にはすべての事ができる』」(マタイ 19:26)。全時間訓練に召されて、訓練に参加する前も参加した後も「自分にはできない！」と思えることを多くの時経験します。しかし主に信頼して主に従うなら、「人にはできないが、すべての事ができる神」を経験することができます。そんな素晴らしい主なる神を経験することができる場所、それが東京全時間訓練です。



9th

鳥居 真悟

Torii Shingo

わたしは台湾やアメリカの訓練生を見て、かっこいいと思い、親たちを喜ばせたかったこともあり、2005年に全時間訓練生の召しに自分をささげました。その時、「中学校を卒業して、高校を卒業して、大学を卒業したら、全時間訓練に行きます」と献身しました。

高校の時は純粹に主を追い求めなかったのが、大学を合格した時は嬉しかったけれど、訓練が怖くなってきました。3・11の後は余震などで眠れなくなってしまい、大学を休学して海外に行きました。海外に移住しようと思い、大学を退学しましたが、ビザの関係で日本に戻されました。日本に戻ってきて自分より若い姉妹たちが主を愛する姿に励まされ、うらやましいと思って、大学に再入学しました。

その後も何度か全時間訓練に行くことを献身しました。台湾や中国で訓練を受けたかったのですが、核心

成就集会の後、青年合宿で日本の全時間訓練に行くことを決心しました。大学を卒業した兄弟姉妹やトレーナーの兄弟たちには、「卒業できるなら行きます。祈ってください」と言いました。大学を勧めてくれた姉妹や一緒に朝ごとをしてくれた姉妹やいつもいろいろな悩みを聞いてくれた姉妹たちと一緒に祈りました。また今、一緒に訓練を受けている姉妹から「一緒に訓練行こう！」というメールをもらって、彼女にとっても励まされました。

先生から「あと2単位しか残ってないから、同じ教科の先生と相談して、卒業させよう」と言われましたが、自分の中では卒業できるかどうかは主の御手の中にあると思いました。主が訓練に行かせたいなら、卒業させてくれると思ったからです。無事に卒業が発表されて、大区の責任者の兄弟から2、3回くらいメールや電話が来ました。そして、予備訓練の一週間前に申し込みました。



山下 咲子

*Yamashita Sakiko*

主の慈愛が追いかけてきます。海外に逃げても、自分の献身を忘れても、主はわたしの献身を忘れませんでした。彼はただヤコブを愛したように、わたしも愛してくれました。彼のあわれみと恵みによって、わたしは今訓練にあずかることができます。

## 卒業生のことば

全時間訓練に参加して、多くの学びと祝福を今も受けていると感じます。今振り返って、一番益になった学びは、クリスチャン生活と召会生活の各面の「基礎を据える」ことができたことではないかと思います。彼は、信実な方であり、すべてに十分な神であり、わたしたちの払った代価を必ず覚えてくださる方であり、またからだのかしらです。「彼に信頼する者は、辱められることはありません」(ローマ 9:33) という言葉は、信頼するに足る言葉です。全時間訓練に参加して本当に良かったです。

勝又 康平 (第1期卒業生)

.....

主に感謝します。主はわたしをあわれんで、今日に至るまで牧養し顧みてくださいました。訓練を卒業してから数年が経ちますが、ときには主の取り扱い、対処、砕きがありました。そのような環境を通して、自分自身にはなにも望みがなく、無力であることを見せられたことは主のあわれみです。主だけが信頼できるお方です。生きているのはもはやわたしではなくキリストです。訓練で学んだ御言葉は真実で実際です。真理は日常の中で実際となります。献身は御言葉の実際を生きるようにさせます。主はまた召会生活のすばらしさを見せてくださいました。召会生活は本当にすばらしいです。豊かなキリストの享受に満ちています。わたしにとって集会は真の娯楽です。全生涯、召会生活にとどまり、主の牧養の下で主に仕えることができますように。

根津 恵 (第3期卒業生)

**創世記 28:12**

**彼は夢を見た。見よ、一つのはしがが地上に立っており、その頂は天に達していた。すると見よ、神の御使いたちが、その上を上り下りしていた。**

# Purpose of the Training

## 訓練の目的

訓練生をキリストの中で建て上げて、彼らの命が成長し、  
円熟へと至るようにする。

エペソ 4:15. コロサイ 1:28

訓練生を装備して、聖書にしたがい、聖霊の啓示によって、  
神聖な真理を認識させる。

Ⅱテモテ 3:16-17. Iテモテ 2:4. Ⅱペテロ 3:18

訓練生を育てて、彼らの霊的能力を養成し、  
福音を宣べ伝え、若い信者たちを養い、聖徒たちを成就し、  
神の言葉を預言して諸地方召会を建造し、  
キリストのからだの建造において究極的に完成する。

マタイ 28:19. Iテサロニケ 2:7. エペソ 4:12. Iコリント 14:1

# Goal of the Training

## 訓練の目標

神聖な啓示の最高峰に到達する——

神が人となられたのは、人が神格においてではなく、  
命と性質において神となるためである。

今日のエルサレム（召会）における今日のシオン（勝利者）の  
最高峰に到達する。

啓示録 14:1

キリストの復活の力の中で、  
キリストの死に同形化される生活をすることによって、  
キリストのからだの実際に到達する。

ピリピ 3:10

# *Praise the Lord !*



**Full-Time Training inTokyo**

〒151-0071

**東京都渋谷区本町1丁目30-7 ジャパンゴスペルワーク**

**TEL : 03-3374-8576**